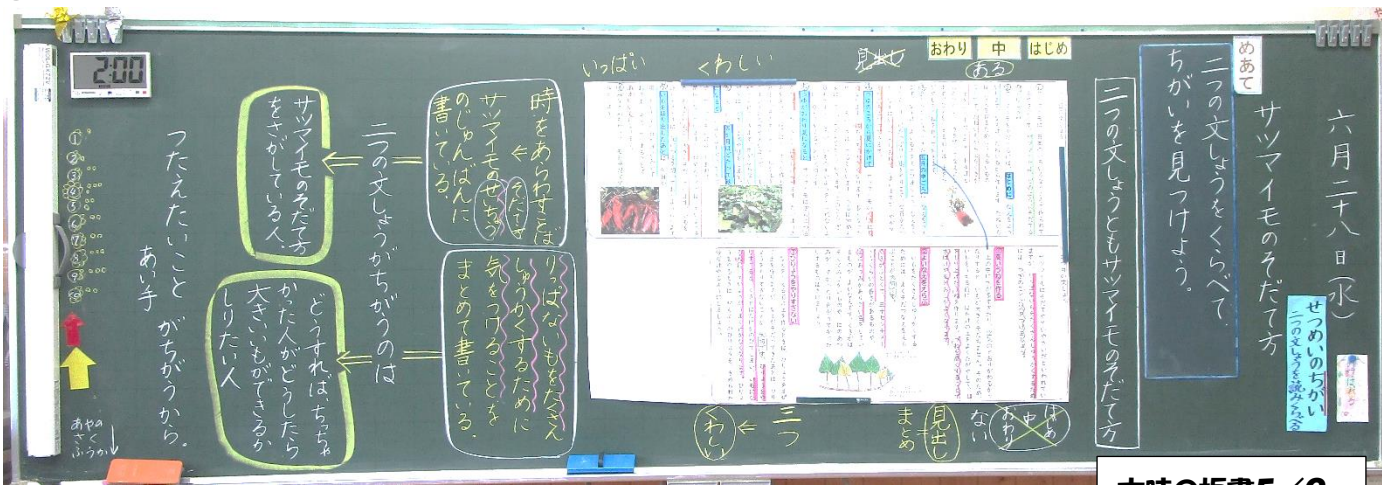


6月28日(水)は、宮川先生による国語科の研究授業でした。本単元は、「全校のみんなが調べ学習をするときに同じことを書いている本がある場合、どの本を読めば、知りたいことが詳しく分かるのか、本の選び方を紹介してほしい。」という図書支援員の先生からの依頼を受け、2つの文章の説明の仕方を比べて違いをまとめ紹介することをゴールとしていました。本時は、サツマイモについての2つの文章を読み比べ、違いについて考える学習をしました。本時の授業と事後研究の様子をお知らせします。

単元名 「こんな人におすすめ、あなたにぴったりの本はこれです」 **全9時間**
教材名 「サツマイモのそだてかた」(東京書籍) **2年1組 宮川 磨理 先生**
本時の目標：二つの文章を読み比べ、相違点について考えることができる。
本時における見方・考え方：二つの文章を説明の仕方や大体的内容をもとに比べ、相違点を見つけている。



本時の板書5/9



友達と2つの文章のちがうところを探しています。



どんな方法で解決できそうか話しています。

宮川先生による授業のリフレクション

児童の実態に合う手立てを立てていくこと、読むことにもっと重点を置く学習を仕組んでいく。「なぜ」をもとに課題を解決していく学習を仕組んでいきたい。

授業参観の視点(3点)に沿ってグループで協議を行い、全体共有しました。(抜粋)

- 1 本単元で身に付けさせたい資質・能力を育成するための主体的・対話的な学習活動の設定**
 - 単元通しての準備がしっかりとできていて、学習の足跡を生かした学習になっている。
 - 学習規律が定着し、友達の意見を認め合う雰囲気がある。
 - ペア活動では、意欲的に学ぼうとする児童の姿が見られた。
 - ▼個人思考の時間が短い。まずは個人で考え(相違点に線を引くなど)、それをもとにペア学習や全体へ広げていきたい。
- 2 児童が本気になる問題や課題の工夫**
 - 何のためにこの単元の学習をしているのか、導入でしっかりと確認し、見通しを持たせていた。
 - 児童は、単元ゴールに向かって意欲的になっていた。
 - 児童が意欲的に学ぶ姿勢に向かうための手立てがされていた。
- 3 「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てや働きかけ**
 - ▼2つの文章を対比させた板書はよかったが、違いが分かるようにできるとよい。
 - ▼発問が同じことをくりかえす内容になっていたため、工夫する必要があるのではないか。
 - ▼児童が、どれだけ違いを理解できていたか。目的や相手をしっかり捉えた上で、違いを見つけていく方が考えやすくよいのではないか。
 - ▼2つの文章の違いを見つけるための視点を示すとよかったのではないか。
 - ▼なぜ、そう考えたのか、文章に返らせながら、自分の考えを話させるようにしたい。

宮川先生の授業では、子ども達が1人1人の意見を大事に認め合える雰囲気できていて、違いをペアで探したり、自分の見つけた違いを発言したりと進んで学びに向かう姿勢が見られました。研究協議の中では、読み比べることに難しさを感じていること、そして、まず「読む力」が身に付いているのかという点についても課題としてあがっていたので、音読などしっかりと読ませることも大事に、「読む力」をつけていきましょう。

1学期の研究授業を振り返って

1学期は、3年目を迎えた実践研究協働校事業を含めた4本の研究授業を行いました。研究授業からの学びを生かして、研究主題の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた日々の授業改善につなげていくことができているでしょうか。年度当初に確認した授業の方策を踏まえ、教材研究をしながら、2学期も“資質・能力ベースの授業づくり”を目指していきましょう！

<授業における方策>

- ◆「言葉」の意味や働き、使い方に目を向け、意識化を図る
- ◆数量や図形、それらの関係などについての概念等に注目させる
- ◆思考を深める発問の工夫
- ◆明確な目的のある対話を仕組む

